

刊夕 日八十月七



定価 一冊五錢、一月五拾五錢、三ヶ月一圓二拾五錢、半年二圓、一年三圓五拾五錢。電話 六三〇。發行所 常磐毎日新聞株式會社。印刷所 常磐毎日印刷株式會社。



故山行記

平町 御代 豊

一路の清流湛へては紺碧の色をなして倒影畫くが如く、激しては岩石を飛ばし懸けては水晶簾を垂れ、水樹清新にして時折馬鈴の聞ゆる更に一味の詩情あり、水は長亭短亭を過ぐる毎に愈よ、其の清例を加へ水中の小石礫みな活きて走るが如きなり。

これ新川をさかのぼる事一里半、白水は湯の岳の下樹に相合して晝なほ暗き森林より湧き出づる泉の流れ、て集へるなり。この天然の園生に余は友人とともに拾餘年ぶりにて漸く遊ぶを得たり。

時は六月八日そは頂度男子の表徴、舊五月端午の節句の日なりき、朝八時半自動車を驅つて綴に下車しをれより上る事約一里にして王磐山小學校に達す、このあたり余がこの小學校に通ひし頃大小幾多の炭坑萬山われるが如く盛なりき。

然し世の不況の波紋はこの平和境の奥地にまで侵入し今はは見る影もなく草又草、昔のおもかげは何所へやら消え失せ名ばかりの學校も今は内郷第二分教場と改まり、他郷に移り住む

群に取り残されて若干の勞働者の子弟の教育場なりき。『哲瀬君……ここに炭礦の事務所があつた筈だが……』

『そう……ここにこの山の事務所があつて事務員が二十人も居たんだけれど廢山の爲今は跡かたもなくなくなつたよ』

『この岩間で俺達は夏の午下り、學校歸りによく水泳をやつたもんだよ、今考へても實になつかしいね……』

『おれ達もよくやつたよ、上から飛び込む時などの愉快さと云つたら……まだ腦裏を走つて居るよ』

かうして余と二人で逍遙する幼な時分の住地、見るもの總てがなつかしくはる／＼尋ね來し吾等二人を迎ふるが如く萬木生々として見えぬ。

初夏の陽は漸く頭上に來てセルの着物如何にも邪魔くさく人なくば水にも入りたき心地遂に二人は王磐山分教場の玄關にたづみ、硝子破れ、壁崩れし舊學校の校舍を見ては日々腰辨さけて通ひし幼かりし頃の自分の姿を畫いて今日あるを思へば舊師の髭髻たり、仰げば若葉青草に色どら

町、宮炭礦へ出る道を尋ね今登らんとす時正に十二時を廻りぬ。

『あ、こわい、君はどうした』

『暑い、着物をぬがう』

一山に登りつめれば流汗玉をな拭ふに違あらば肌襦袢雨にぬれたるが如く岩に腰かけ休む事しばし、そして比較的らかな下り坂を歩き始めぬ。漸くにして遙の彼方に黒煙のもう／＼として宙に流れるを見る。

『あ、もうすぐだ、もう一足だ』

初夏の風緑の草木をなびかせ谷間の流れチロ／＼と虫の囁くが如し又何となく物淋し、この山道途中二三の

人、首へり、いづれも吾等の着物をかへ半裸体の姿に異様の眼を見はりつゝ通り過ぎぬ。

余は今この緑の草木、谷間の流れ、澄みし碧空、これらを目のあたり見てこのどかなそして清らかな山里に朝には露をふんで鳥と共に歌ひ、夕には月明の下一人なく虫を友に其の日を送らば如何に生甲斐のあるそして鳥木の精の如く清らかであるべきかと全然空想にふけて、こゝに住む人をうらやみしてほこりくさい都會に住む自分を如何にも果敢なく思ひぬ。

(一九三三、七)

例年の通り

氷水及び色々の新口な飲料水を初ま

とたから側年の通り御引立御用命下

調味は百パセントデス

山盛の!

アイスクリーム	十
あづきアイス	五
ミルクケーキ	十五
アイスケーキ	十
アイスアイス	十
氷金とん	十
氷パイナップル	十
外澤山メヅラシキ飲料御座い升	十

平町三丁目

速迅前出

魚清屋

電話六三三番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません

平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

電話一八一番

質物一般

各種債券類

三井質店

平町四丁目川岸
電話六〇六番

セメント

壁用材料
コイルタール
ペンキ塗料
板ガラス

磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舖
平町二丁目電話三三

初夏サロンの新装

店内清楚にして氣持良く

アイスクリーム 十五錢
タンク入りソーダ水 十五錢

ドーゾ御用命を……

田町 サロン
電話……三五二番

月曜言論

商店の共同戦線

各地商店とも東都百貨店の地方進出には惱まされ抜いて居る模様であるが平町も御多分に漏れず此程高島屋の出張販賣に依つて盆前の尊い金の幾割か、吸引された様子である、此の侵入者の傍若無人な遺り方に對して平町の呉服商組合や其他業者は袖手傍觀何等對抗的に爲す處がなかつた、是れは餘りに無氣力な智慧のなさを暴露したものであるまいか。

一体平町の商人の組合などは主として懇親とか、交際方面の機關の觀があり經濟的方面や營業的方面の活動に乏しいと思ふ。

同業組合等で春秋二回の總會を開く向もあるが、たゞそれはお座なりに過ぎず強固な結束とは認め難いのである、一例を述べれば或るせんべい屋がせんべい型を借りに行つた處商賣敵でこれを斷つたと聞いて居るこんなことでは團結もあつたものでない。

今日の行詰れる經濟界に善處するには一層商業家の經濟的營業的團結を必要とする。これは自分の理想に過ぎないかも知れないが米國あたりの各小賣業者は協會を作つて基礎のある原價打算をやつて居るといふ、資金の共同購入なり、共同仕入なり、もつと目下の不況時にビタリ突き込

劃せやればならぬ、そして同業商店の團結が其剣味を加へて結束が水も漏らさぬ状態に置かれてあれば百貨店の侵入もさほど恐るゝに足りない、思ふ様に共同戦線を張つて是れを向ふに廻し四股を踏んで戦ふ事が出来ると思ふ、百貨店の侵入は獨り高島屋のみに限らない、今後は相次いで出張賣りの銳鋒は平町を席卷す事であらうと思ふ、各商店は今の内に充分な共同的用意と準備を整へて外敵に備ふる處があつて欲しい。

上水道擴張竣工祝賀

廿五六日頃と内定

平町上水道擴張工事竣工祝賀式は豫算其他の關係で延期を見て居たが竣工検査が廿一日に行はれる事になつたので祝賀式は廿五六日頃盛大に舉行する豫定である。

平商生徒が

商工調査研究

休暇中の宿題

- 平商業學校にては十六日午後一時より職員會議を開き今夏休暇中に於ける生徒の宿題を協議の結果四五年生徒に對し左記各般に亘り調査研究せしむる事になつた
一、常磐炭礦の調査
二、平町を中心とする貨物自動車の活動範圍
三、水産物の配給系統
四、平町其他自己の町に於ける小賣商の種類別調査
五、主要商品卸商の仕入方法調査
六、化粧品等の沿革分類用途効用消費量産額販賣状況
七、新聞に現はるゝ廣告の分類の統計
八、農村に於ける副業調査
九、自己の村の産業組合の状況
一〇、農家經濟商家經濟の調査及帳簿立案
一一、無盡業の調査
一二、醬油業酒の原價計算
一三、新聞記事に依るグラフ作成
一四、船主の經營狀況調査
一五、重要商品の販賣系統及金融
一六、配給生産市場

武徳會弓道部が

昨日道場開き

射手二百餘名參列

大日本武徳會平弓道場の道場開きは昨十七日午前七時より平署裏の弓場にて舉行郡下各地より二百餘名が參列し縣社山部神官の神詞奏上あつて腰塚範士の六法射的其他の型あり一般の競技を行つたが成績左の如くであつたと
(金の)好間齊藤正藏(揚的)四倉佐藤倉之助

縣下教員の

体操講習會

八月三日から五日迄

縣下小學校教員夏季体操講習會は今夏八月三日より五日迄平第一小學校及び平商業學校の校庭に於て開催されるが科目は競技、球技、体操にて講師は左の諸氏である
△本縣体育主事宮田彦二郎
△山梨縣体育主事青山正文
△磐城中等學校教諭横山勝
△平第一小學校訓導小林武志
△五色(青)川島(黄)鈴木(赤)大谷(白)大和田(黒)金子
△金の 新妻、高秋、小見
△揚的 大和田

磐中對磐炭

競技延期

來る廿一日に

既報磐城中等學校對磐炭の陸上競技試合は昨日磐中グラウンドに於て舉行する筈の處コンデション悪く來る二十一日に延期された

蕃殖牝馬検査

蕃產馬組合では左記日割を以つて入遠野磐崎村等にて蕃殖牝馬健康診断を行ふ事になつた
△七月廿二日より五日迄
(上遠野)七月廿五日
(上遠野)七月廿七日(磐崎村)

矢場開き

磐中も

既報磐城中等學校にては十六日午後一時より矢場開きを、弓道部員の競技其他

平職業紹介所報告

- 求人部の部
△女中 二十才前後 尋卒
月五圓(相馬郡中村町某)
△女中 十七才以下 尋卒
給料面談(平町某)
△出前持 十六才 尋卒
給料面談(平町某)
△求職の部
△土工夫 四十一才 尋卒
給料面談(平町某)
△難夫 五十三才 尋二修
給料面談(平町某)
△外交員 二十一才 高卒
給料面談(夏井村某)
△電気工 二十三才 高卒
給料面談(内郷村某)
△給仕 十五才 高一修
給料面談(平町某)

怪しい死に方

▽死体を解剖に附す

男の急處を毆られて 丹毒症を併發死亡す

平町材木町三十番地葬具造花職根本松太郎(五〇)は去る十七日午後一時病死した旨家人より死亡届出あつたが死因に不審ある事を探知した平署にて検視した處身体數ヶ所に歴然たる傷跡ある爲め藤沼醫師が屍体を解剖せる結果丹毒症に依る病死と判明したが同署の取調べに依ると根本は本月五日夜八時頃近所の理髮店吉田濱吉方の改築落成祝ひに招かれ席上

居合し た同町ブッキ職松田榮吉(五三)と口論し大立廻りを演じたが同座の者の仲裁にて一先づ鎮まり同

店を飛出したが鬱憤が晴れず市内のカフエー等を飲廻つて同夜十時頃松田方に乘込み松田及び松田の妻を店先で散々なぐり付けた爲め是れを見た松田の長男一郎(二〇)次男榮吉(一七)何れも假名の兩名が飛出し

後進の爲め

受験座談會

上級學校に入學した 磐中卒業生が集つて

磐城中學校にては本日午前九時より今年度受験者の爲め同校卒業生にして去る三月上級學校入學試験にパスした左の諸君を招ぎ受験談話會を催した

北大小野彌久 一高猪狩 良彦 同鈴木米次 水高 馬目一 同吉田源太郎

生花講習

頗る盛況

既報平女子青年團の生花講習會は十六日午後一時より第二小學校に於て正木旭正氏を講師とし開始したが會員三十餘名あり頗る盛況である

田人村長後任

早くも進行運動

石城郡田人組合村々長吉田千代之助氏は來月八日を以つて任期満了となるので後任村長を目指して吉田誠之助、油屋菊次郎、緑川秀雄

掛聲諸共

敵將を投げ飛ばす

平商佐藤君の殊勳

昨日の平商對古河柔道戦

既報平商業學校對古河炭礦の柔道試合は昨日午後二時より平商道場に於て四段青天目源一郎氏審判の下に一本勝負に依り開始され一進一退の大接戦を演じ遂に大將同志の決勝となり掛聲諸共平商佐藤二級が古河本圖二段を内股にて投げ飛ばし觀衆の拍手暫し止まなかつた戦績は左の如く五分引分四對三にて平商の勝に歸した

古河

平商

金成(引分) 佐藤繁 齊藤 〇志賀 小幡〇 同

同(引分) 四家



十九日

報線氣天

天気は全く恢復し今晩も明日も南よりの風晴れ雨があまりです

今晚の部

後六〇〇 子供の時間 唱歌と四重奏 アカシヤ子供會 ハーモニークワルテット
後六二〇 コドモの新聞
後六二五 カレントトビツクス ハロルドパーマ

後七三〇 産業ニュース
後八〇〇 奥津瑠璃一源

緑川義貞の諸氏が早くも進行運動を開始して居ると

明日の部

前六〇〇 浅草ラヂオ体操大會状況 大京浅草側
後八三〇 放送舞臺劇「戀渡橋橋本」澤村田之助
後九三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組預告

グミの實で

咽喉を閉じ

幼児絶息死亡す

石城郡赤井村大字西小川字石堂居住小松敏男の長男文郎(一)は昨十七日午前八時頃姉初江(五)に連れられ兩親の稼ぐ畑地の傍らで遊んで居たが姉の初江は附近のグミの樹よりグミを取り文郎に與へた處初江の知らぬ間に飲み下したが實が大きく過ぎて咽喉を閉じ絶息死亡したと

逝きし友の慰靈

昨日の磐女同窓會

既報磐城高等女學校同窓會は昨日午前八時より母校に於て百六十餘名出席第一回卒業生金成キミ氏の開會の辭に始まり正木校長の挨拶あり死亡會員の慰靈祭を行ひ後餘興等あり頗る盛況であつた

幼児殺し執行猶豫

平支部言渡

既報石城郡飯野村大字上荒川字林作四十八番地鈴木トヨ(三)が男に欺され不義の子を産み落し其の處置に困り締め殺した殺人事件の判決言渡しは本日午前十時よ

青年資金造成

石城郡小川村青年團では来る廿

平町養蠶家の

春繭取引成績

平町に於ける養蠶家十五戸の本年度春繭取引成績を見ると白繭が二百十六貫で代金四百九十七圓、黃繭は五十五貫で二百二十三圓、合計二百七十一貫、六百二十圓の取引を見たが前年に比較すると幾分貫數が増加したと

大神宮の祭り

平町新川町に鎮座する大神宮の祭例は十八日に行はれるので地元青年分團では舞臺を設け茶番狂言や民謡大會を催す筈

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】
悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲 畫
第四百席 真庭念流 達人櫻井五助

一先づ双方和解す
秋山要介は磯五郎のしほ
／＼としてゐるその體を見
て大いに同情いたし
要『磯五郎俺が猪之松の身
内に談判して林藏を伊勢か
ら此方へ戻して貴様のそば
で長く孝行をさせるやうに
して遣はす』

これを聞いて磯五郎が
磯『先生さうなりますれば
この上の喜びはございませ
ん、わたくしも老る年でそ
れには近來めつきり身体も
衰へ長く娑婆にゐる事も出
來ますまい、何ぞぞ林藏の
手から死水を貰つて佛にな
りたいものでございます』
要『アハハ、麒麟は老れば
驚馬と申すこともあるが、
鬼と呼ばれた磯五郎も今は
佛心になると不思議だな、
よし／＼俺が何とか工夫を
用ゐて林藏を返すやうにし
て遣はす』

磯『それは有難いことにご
ざいます、猪之松どのの身
内の腹癒えるやうどんな事
でも致します』
要『イヤ待て、こんな事は
下から出るとまず／＼向ふ
の氣勢を煽ることになる、
そのかけひきがチト六ヶし
い、俺に任せて置け』



と翌日秋山は丈右衛門を
伴れて阪戸の名主石橋源石
衛門のところへ來た、此の
源右衛門は林藏が猪之松を
斬つて武州を立退く時にこ
ゝへ別れを告げに來て、親
父の事を頼まれた縁故もあ
り、それに林藏を愛して居
り又大層勢力のある人物、
それゆゑ秋山がこれに來て
磯五郎が林藏を想ひ居る事
を話して何とか貴下のお力
に、猪之松の身内を宥めて
和解をさせ林藏を返して下
さるやうに御世話願ふと
頼みました。源右衛門は元

より林藏に惚てゐること、
て早速承知して秋山と共に
猪之松の母親の許に來て段
々と説きつけた、林藏を日
蔭者にしたところで猪之松
の靈の喜ぶ澤もあるまい、
また身内の者が林藏を殺せ
ばそれだけの罪を被なければ
ならず、身内から罪人を
出すも好ましからざる事そ
れにこの事を承知して下さ
れば立派に猪之松の石碑を
立て佛事供養もいたしお前
さんには當分の入用として
金子百兩を贈る、仇は徳を
以て奉ぜよと云ふ事あれば
勘辨して呉れると只管頼み
ました、猪之松の母親は常
時眼病にかゝつて困つてゐ
るところですから承知をし
たが、一應名主様にも相談
をしてみようと思兵衛と云
ふ者を呼んでこの事を話す
と
安『それは結構だ林藏を他
國に出して、けばとて猪之

松どんも喜ぶめえ、それに
この頃は子分もお前の所へ
は立寄りねえやうだ、モウ
これ猪之松が歿くなつて二
年にもなるが未だ石碑も出
來ねえさう云ふ譯で身内の
者は頼みにならねえからこ
れは源右衛門どんや先生の
お説に従ひ仲を直したらよ
からう』
と懲う云つた、そこで母
親が承知したにつき秋山か
ら一百兩を贈り磯五郎が猪
之松の石碑を建て供養をし
た、此時に猪之松の主立つ
た子分がゐたならばこんな
事で和解にはなるまいが八
州役人に追はれて他國に出
てゐた其の留守中の事とて
容易く之が成立ち、要介に
磯五郎は大層喜びました、
とて秋山は一時江戸に
行く事にして玆を出立する
次に磯五郎は伊勢の白子に
居る林藏を迎へに行かうと
之も支度をして赤尾村を出
立しようとする、猪之松の
一子分武州山毛谷の源太郎
に中新田の源七、高萩の彌
五郎、唐子の音吉、玉川の
權太郎など打揃つて尋ねて
來た、磯五郎が會つて來意
を聞くと源太郎が
源『爺さん俺達は去年八州
のお役人に賭場へ手入れを
されたに就いて一時國を賣
り上州から野州を廻つたが
今度妙な事を聞いたから歸
つて來た、お爺さんは秋山
先生を頼んで親分の阿母さ
んに話して林藏どんを此方
へ歸すことにしたとの事だ
がそれは本當かの』
「ハイ阪戸の源右衛門さ

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

お客様本位の...
正確な時計
平一當盤屋時計店
好適の眼鏡

例年の通り
氷水始めました
多少に拘らず御用命御引立の程願上ます
特...アイスクリーム(山盛) 金十錢
...あづきアイス(同) 金五錢
...ミルクケーキ(同) 金十五錢
...ソーダ水 金十錢
其他氷水各種
出前迅速
藤寅
平一丁目
電話...一四一番

外科
門專光X
科線
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番